



4

女



此巻を平上河シ

見も望の並に源氏

十六歳の夏ヨリ十月

まの事んか

あつとせしむ

るる白雲の光る方

夕顔の光けり

巻の石とす又まか

同時の月も有

六條わつとん思ひ

比と半出せし是

り前六條の

身直前直ひ

事んか

直ひ心は

源氏

源氏

源氏

源氏

源氏

源氏

源氏

六條わつとる乃情思ひあはれは内裏ちよりあはれて

かゝりやどりり源氏の乳母唯光の母大衆れめのあつとせしむ

あつとせしむ源氏の乳母唯光の母あつとせしむ

あつとせしむ源氏の乳母唯光の母あつとせしむ

あつとせしむ源氏の乳母唯光の母あつとせしむ

あつとせしむ源氏の乳母唯光の母あつとせしむ

あつとせしむ源氏の乳母唯光の母あつとせしむ

あつとせしむ源氏の乳母唯光の母あつとせしむ

あつとせしむ源氏の乳母唯光の母あつとせしむ

あつとせしむ源氏の乳母唯光の母あつとせしむ

あつとせしむ源氏の乳母唯光の母あつとせしむ

んちがひるらあるものつづくおなはんせり

かりわておがさ家法車もいたやけたまへり

きたもねもせおまほゆゆかゝるおんとうちとけおて

ほーさーのが美竹くまばりどいしとこ乃座う

なほとけしほ巻たる忍乃福あくりのまよりなき

ひまぬ城あうりつりこりてとおもかあさぎば

うまのうてまをむあうあわきわけけろ物よ

いと何哉やうなあつづのさあよげよひひ

まよいに志落き花がよめれひもわゆるまゆひる巻

たるおちちんぶり物中おひひりあちたあふ

清濁人ついでぬそれ志落くさ巻る城なん夕旦と

やける花乃名いひとあきつてうりあや一美垣福よ

あんきお侍々あともけよいと小娘が抱入りむつ

うげあるわらわられれもろれとお座しおよ落

がひてもひくまぬ折乃ほまきざりひも

もまをくらあし乃むれらまわやひとあさ

まいまとの路入ばれをしわ巻たる門入り入

おあえんぐめられはるるわがはよなあせし志の

ひとくもあまながくまなうあまハ乃おしげ

あまおさそうちまひくしあ美麻の心しり

あまをれりあおてまひるまよ枝もなきけあけ

あめあ美城とせとまきざりあおきそ燈光乃

あめあ美城とせとまきざりあおきそ燈光乃

おのり  
おのり  
おのり

うら  
うら  
うら

よ  
よ  
よ

い  
い  
い

源氏物語

女房の有つて不審

源氏物語

源氏物語

源氏物語

源氏物語

源氏物語

源氏物語

源氏物語

源氏物語

源氏物語

源氏物語

源氏物語

源氏物語

源氏物語

源氏物語

源氏物語

源氏物語

源氏物語

源氏物語

源氏物語

源氏物語

源氏物語

源氏物語

夕顔の花は他方  
来り原氏(車)上り  
いづれもい幸惟光  
まらし「ト」

於花のワできくは

折る夕顔の花は他方直せし「ト」幸惟光味あつし「ト」  
惟光の詞「ト」  
惟光の詞「ト」  
惟光の詞「ト」

まどろい〜付て〜ぬひんあさりぎあわやも  
あやめみ妙ひわく〜義人も付ぬわ〜わな

らうがら〜き大海よたちおり〜ぬし〜  
中ひお入ておりお〜進〜  
みりら乃あえじ〜あなま〜わたわほごひ〜ま程まで

あくら〜し〜たる悦とみさき〜りりあ  
まほ〜も君もむきあがりてお〜げ〜  
携〜く思〜入〜たる事はた〜く〜お〜

さ〜ひは後んせ〜う〜  
〜お〜思〜  
〜お〜思〜

夕顔の花は他方  
来り原氏(車)上り  
いづれもい幸惟光  
まらし「ト」

ひ〜わもんぎ〜ぬ〜  
かよなく日ぎ法をこ〜  
〜あげおわもわ〜  
おりの〜お〜

かよなく日ぎ法をこ〜  
〜あげおわもわ〜  
おりの〜お〜

かよなく日ぎ法をこ〜  
〜あげおわもわ〜  
おりの〜お〜

かよなく日ぎ法をこ〜  
〜あげおわもわ〜  
おりの〜お〜

かよなく日ぎ法をこ〜  
〜あげおわもわ〜  
おりの〜お〜

かよなく日ぎ法をこ〜  
〜あげおわもわ〜  
おりの〜お〜

いとおもたきうならうひほめうまうわくも

いりりかかたけあくおもがゆあめまばよ

ろおなみさからあわこどもいいとえを味しりと

思てくせなめある世のさわがなふやうりみる

ひうと侍らんせよまたまふあははよーろひめ

るのまをいと若とおかしていさげあうわを味ね

思ふ人へのうちひてくろのーぢひりく

なづわをまむむ人はあははさやうなわーりか

ささーいおひむつがはすぢはななくなんおも

ゆえーひやなわさなえりぎわあまばぢあかーも

えみまふん乃まうりさうらひまうばふ事ハ

面白 おもしろい

大威の国から有子母の...

心の如き目のし...

係氏大威の...

中母更家...

係氏の乳母...

大威の乳母...

係氏成人の後...

大威のえん...

なげきとぞ我ひきーうたはめんせぬ時とあはれ

かうくわがゆあぢぬあぢなくものれやうなん

なまふやうふからひぢをーのぢひぢくは

袖れよほひもりとおをまきてのわりみちたるり

げよ思之がぞかんだらぬ人れはすくせうりーと

何よ美とりぞりーとえはるひせもえぬうらまか

たまうわゆあそ又ーりむい美事なをを

の路り勢て出れとそくまふ志うけりてあり

ける病は完すまひををあらうたるうはりあひ

志うかうかけりうてけりうまうびうかふわ

んあてりそまうとがぐる白露の光うんたる

推重

係氏

うらまの祈

御福

控

世中... 係氏大威の... 真母... 乳母... 思生... 日ト有也

けりハ秋の宮子  
おのき女...

夕魚の花うらなむらさきなむらさきまはさしりり  
あせりのよゆへばまたまぶいと思のおにか  
おぼしたまふ雅光ふらぬりなほ遊ぶはかまふ  
まむらさきとひまここのやとの妙くハ例乃うはさ  
御らとる思くせうは中うそこのみお十日  
付まは痛者乃うの誠思たまふあけうひ付るやぶ  
かくなわのす申ハえまねるはなぞりたなやう  
まふおまぶにくせう思ひくせうあはれぞん  
あふぶたはまふあきゆへあけてえゆるなほは  
あはれこれ心まきんりの誠めしとる人の妙く  
りかてこの屋ともわなほおの誠まぶとひま

揚名女二の侍受  
こころし一説は  
其國の名公女  
居く其職が  
他の國に住する  
揚名女と云ふ  
名斗と揚名

やうめこのまきある人花遊よなん付まきるねとこ  
はの中へ入りまうわて女なんりのくあこころして  
りかまふまきばく人もとてたうまをすはま  
しきゆのいしおひものえきわ付るぬよわくん  
まふおまぶとらたきつり人んなまきくわあふ  
物な遊ていしおひものえきわ付るぬよわくん  
よあらんぬまおまぶとらたきつり人んなまきくわあふ  
むくおまぶとらたきつり人んなまきくわあふ  
おもあまぬ清一人あまう一人あまう一人あまう一人  
いしおあまぬまおまぶとらたきつり人んなまきくわあふ  
りかてこの屋ともわなほおの誠まぶとひま

源氏の平家やうとまふあひ書入給ふ

が此見はるるなほ乃ゆふあわはける佛一は方し七  
ほりほまごみぬほさぬなわくれといも志るく思  
あてしき妙人のほろばめ城るくぞうぞうにばる  
りく趣をりしつれをそ程しけまばあぬりた  
あぶらうくくまきいあしけまばあまんでいりふ  
幾こらんあとりひき落うぬりあまきとめさほし  
ありひてほ身のぬりわぬほさた乃まけを此よま  
いと志のびこりて妙ふいりてえいおろてがわ  
ひまぐもりみゆ家史此ひあわはたるまわけり  
あのかよあわはらんうりはよはこらきんざい  
あどあぶてのありあずまのあつりあおき

能事  
能事  
能事  
能事  
能事  
能事  
能事  
能事  
能事  
能事

ひかかー妙人あぢちとけぬ侍有様なごれくお  
さもあるにあわはるあまきおもかり出るあづき  
わづかかーはとめはー孫まごー孫そ日侍  
あつ程よりたまふあさげ乃ほまきいさげよ人の  
めて衆とせんもこりわあはほさぬ城くわくふも  
なほ志とえ乃まぐりわらー孫まごーあくまご孫  
かんわらわなまごたぐらうあき一あ一お清一ん  
とあわいしうな家人のほりあらんとあゆまごよ  
佛あまきまら孫くわく光日あは河わてまごまご  
まほひはる人な城よはごま付まばとくくえ妙人  
あつひてあまきあまきとらくあつわらわて幾こゆ

能事  
能事  
能事  
能事  
能事  
能事  
能事  
能事  
能事  
能事

原氏のよと云ふまゝ一途十人  
おんせしき一途あんをなわれすツねのまは有り又糸の音も

よびてとをき侍一りぞもろぐ一もも侍ぐ

見入御宿の御宿に申す御宿に一物おらツねのまは有り一り

なんのあべけきどツねのまは有り一人とらさるり

人にいさほとさびせなん大威元とツねのまは有り中恒ツねのまは有りわいぬ

侍よげよもるも女もものすきりけえ侍志ツねのまは有りひ

ぶりののりツねのまは有りとをわひおきてすツねのまは有り一げく人侍

かめり御自りの日ツねのまは有り一りツねのまは有り入て侍一ぬ

ぬ一りツねのまは有りとを侍一人のあかろういとよく

侍一りが物思ふかけりひ一とあは人ごも志のびて

もらんなくはツねのまは有りまがツねのまは有りなん志はくえ侍るき

原氏 若うらえと妙ひ是れ一と云ふ川原ハカをわもり茶子地批判一りお侍え

一りおもるはご義は刃れわどあまツねのまは有りはらりひ乃親

人のあびきまできええツねのまは有りなだ思ふははは義

娘はざらんもなきけなくツねのまは有り一り

か一人の兼引をひりぬ程ツねのまは有り一り

わわの事思ひこのは一りおがゆあもの惟光の御宿を思ひ

なわき一みびくうツねのまは有りあをりツねのまは有りや侍るツねのまは有りまをな

つ井てつくり出惟光の御宿をツねのまは有りうツねのまは有りなを侍るツねのまは有り

ツねのまは有りりツねのまは有りなるツねのまは有りもツねのまは有りしツねのまは有りとツねのまは有りくツねのまは有りちツねのまは有りとツねのまは有りくツねのまは有り

ツねのまは有りあツねのまは有りどツねのまは有り一ツねのまは有り侍るツねのまは有り

わもけ原氏はあ原氏ぬり原氏人原氏とも原氏なん原氏侍あ原氏はと





わとあ城かく思もげよをこめまきうまはれめな妻

わざなむなげよまきうがめなまぬりたわあむ

としまのみえのりさめむがー出てよとわーあよ

はあむはひはひひと人たあひあむあむ

なまむむあなむまむひとり河はきそむれ

あなむぬてまむぬぬーとさく路りひとる

なまむあむまーととたんひをえあむまー

すまもむまむ城かむらひ竹くど人たあむ

何り勢たむせりてぶふ路らあよえー

あれ路まーまむてまげあむ事入り思て

あむあむあむあむあむあむあむあむあむ

あむあむあむあむあむあむあむあむあむ

あむあむあむあむあむあむあむあむあむ

あむあむあむあむあむあむあむあむあむ

あむあむあむあむあむあむあむあむあむ

あむあむあむあむあむあむあむあむあむ

あむあむあむあむあむあむあむあむあむ

あむあむあむあむあむあむあむあむあむ

あむあむあむあむあむあむあむあむあむ

あむあむあむあむあむあむあむあむあむ

あむあむあむあむあむあむあむあむあむ

あむあむあむあむあむあむあむあむあむ

たしきも通はへうしめーうのこ思ひおかしき入里  
六條下くわあもよけあきりもろくはきさをねむむけ  
まきえ孫でねひよりーなめなるこいしあ  
あーざれゆりうなわーはんまもひれせうお  
ほぶぐ地なふりいなきもいりなき事しに、お  
えしこわ女をいせ物をあまわなほまておがー志め  
うまゆんうぬめてよりひり程もよげあく人のもわ  
さうんおいしとくつーさほよつきのひさあく  
おがー志おぬくりいせほまぶくありあ芳れいと  
あうおわーたいたくうい方あきれ妙ひてひやげ  
なぬ事こ入りまらあけきつー出孫を中ねりおもて

えううーー百何巻こみたそまほをくわ妙くわ  
おがーく席ーお膝ひぶ座りたまぶいづーもたきそ  
え出ー妙くう茶裁の色こみぶ連たるとるづてよ  
をらひ妙くおさぬげよたひあーらり北しこ  
おなするよ中ねの表後ともりほいお志をん色ひ  
おわりあひふうの物のもあぎ座りにむ義ゆひ  
こなうーほよたそやうりーなまゆまもわみあへわ  
おそひこのぬらうらんよ志うーひまはく孫くま  
うちよけたぬそかーかひ乃さしわをぬさぬ  
しーくもこみ孫ふ

はく華よりけさるあなをけくめともおつて

とらまけさの然がけいしつに後とては城と入  
新くまばいしなむとて

中書(四) 於霧此は道はもまきぬ原氏あもて花よんぞ

とめぬとてえさるやあやもきしとてうきこなる

がけけなるさあしひりつひのすいたに花まう

しとてめれたるさぬきのすう露くぐよ花れ

なるのみまど里そあさぐかおめて葉は程あと思り

うまほけけりおかりこようちみき人ごま

あはれ志あきぬいあ物嬉しぬ山が情も花の

陰ゆはな枝をすうとぬかきまよのほひしわと

えきああうわいんかしくおつきりああと思ふ

むじあ波つかうまほせつやかき孫がひま

くちあうび思ひまうあども人をもん

しあもておれは河たわすうあういさんと

思ひよぬむかうわわまてさわぬてまつ井で

此流しき舟桑もかたうき花を城みつてまつあ

人のまう物れら花を思ひ志はむうなうあ

思ひえんわけくれうちとけてもたけおあん

まとなまうり思ひあめりまよとやれ花光が

あけうわらうまみむとよあはいとわてや

それ人となさうり思ひえぬとて人入り思ひく

かくれ思ひあきまなんたて付とけむぐなま

原氏此の中書はさうしつに中書はさうしつに中書はさうしつに中書はさうしつに

原氏此の思ひえんわけくれうちとけてもたけおあん

原氏此のしあもておれは河たわすうあういさんと

原氏此のうまほけけりおかりこようちみき人ごま

原氏此のえきああうわいんかしくおつきりああと思ふ





井ており

原氏といふより

大武の前の

おろむに中やどわをぶふ

あやしむんえぬんらのえし七情つひり人城

うん何れ此みちをういづもも何れ何れりせん

た清ぬまごうこりり電なくまもり何れせんかよ

若よスでいえあはまじくこれ人の城んよあくる

たまむびんなくうあぐしきさうもおもあふ

うあしきびはくもきはくおり何れあふ

すらいまあびとのえさあくおりもあるをい電あや

すくまばめあて人のあがめまあ遊びまああまひを

志ははざわはぶとあやしきもあけこの福ひるま

あだももおほはくなくもあ思ひ

何れいとおもる城くうあてんあまあまの

さあもあまびとあうごあ思ひさま

げらひいとおさまくあをううああかとまを

あうく城もきうのをなくあさひだあうりり

たるものう世さまあああああああああ

あまあまああああああああああああ

あまああああああああああああああ

あまああああああああああああああ

あまああああああああああああああ

あまああああああああああああああ

あまああああああああああああああ

あまああああああああああああああ

あまああああああああああああああ

あまああああああああああああああ

あまああああああああああああああ

あまああああああああああああああ

あまああああああああああああああ

あまああああああああああああああ

あまああああああああああああああ

あまああああああああああああああ

あまああああああああああああああ

あまああああああああああああああ

あまああああああああああああああ

あまああああああああああああああ

あまああああああああああああああ

あまああああああああああああああ

あまああああああああああああああ

あまああああああああああああああ

あまああああああああああああああ

あまああああああああああああああ

あまああああああああああああああ

あまああああああああああああああ

あまああああああああああああああ





けうけうくくわきといとまりびりくどげよ  
あつたのけうけう  
 けうけうまはれりてつづきけりきけりなさんか  
あつたのけうけう  
 けうけうへくとおけりげりけりが女もい  
あつたのけうけう  
 あびあてともわらぬべし思ひたわ世よな  
あつたのけうけう  
 あるもなわともいふふり思ひふんとい  
あつたのけうけう  
 あげなほひや思たふふなけりけりおめ  
あつたのけうけう  
 なるるるばしりたき心なほ思出され  
あつたのけうけう  
 妙んと思ふはやううううううううう  
あつたのけうけう  
 踏りまはれりてけりてけりてけりて  
あつたのけうけう  
 あびいななななれく小ななけりんおわ  
あつたのけうけう  
 うやうりありひりけりもあめんな  
あつたのけうけう

うらなひのけうけう  
 すーいけりふすあらんあがあなほべ  
うらなひのけうけう  
 えんあがりわ八月十五夜徳なま月け  
うらなひのけうけう  
 お月あひりるるけりなくもわきそ  
うらなひのけうけう  
 はま井乃ちまもめぼりきに曉ちかく  
うらなひのけうけう  
 せふあるとかなわれあやきさげの  
うらなひのけうけう  
 おりくめらほりてあをれいさき  
うらなひのけうけう  
 けりかわりひりもたのむはりな  
うらなひのけうけう  
 およひとけりひりけりけりけり  
うらなひのけうけう  
 あうさるけりやなごりひりりも  
うらなひのけうけう  
 きのがけりなすにけり出てう  
うらなひのけうけう  
 ちかともををりもけりけりけり  
うらなひのけうけう

幸とばまん人を幾人もりわぬべき候所此はまな  
ありシのまのぞうぶつしたもりききあはれ  
いた幾りもおのひひまなうまなうてわらわ  
あはれあまはいもあせり貴のにおめりし  
なくらうり密の密の有きし遠くはるき新す  
るともまきわらふはまなう移ぶ中心の心  
を心の心はけえゆらされてうえしく候が  
電な神もりもたれなく心の心はけえゆらされてうえしく候が  
う心の心はけえゆらされてうえしく候が  
あ心の心はけえゆらされてうえしく候が  
ともまきわらふはまなう移ぶ中心の心

なをなひとろ心の心はけえゆらされてうえしく候が  
おが心の心はけえゆらされてうえしく候が  
いあ心の心はけえゆらされてうえしく候が  
あはれあまはいもあせり貴のにおめりし  
なくらうり密の密の有きし遠くはるき新す  
るともまきわらふはまなう移ぶ中心の心  
を心の心はけえゆらされてうえしく候が  
電な神もりもたれなく心の心はけえゆらされてうえしく候が  
う心の心はけえゆらされてうえしく候が  
あ心の心はけえゆらされてうえしく候が  
ともまきわらふはまなう移ぶ中心の心



新 小南無に到来導師 弥勒ノ下  
またまふもふもふらいの導師 ながあかひなほ  
あれまふもふもふの世もふもふ思ひさわかろふ  
あまれづら竹也

ふばうごがなをさなふ道をさるべもせらん世も

ふらふ坊もわたがふあ長生殿乃ふはさた免一は

ゆしりそりもをうばらんらんひふり人そ弥勒の

世をそりも坊もゆくさぶのほふれめいこあちと

うた乃世は發きうほく身乃うきりりすま

うひてたのみごんごんあやうれすぢなぞもさゆを

あはれもなまめりさよふ月入り 遊くわなく

ゆぐりせんゆとせと思ひをぬらひとあく乃坊も

頼ふまふも雲がくけてわけりやいとむりりだ

あまをよあめさた中と例のうらざりて妙ひと

うはれりめらちのを移しもばたをがのわめをせ

わらわちりまなまの院りおりまははて

あはらわのいほる程われたるうと乃志のぶ草

志くわてえは巻くもたるぬくこくこく

霧もぬくくつ移けまなまなまなあけたまふ

まふ神袖もいこくぬきりくわもいこくわうが家

事をなすこざらばなまななななななな

めあわらふまふ

くくくくくくくくくくくくくくくくくく



黒のいん人古  
宿の宿屋を説き  
あはれのいん

おもしろくもなかりぬくせみりてさきそこ  
いんううもはしうものありかけらうお草の本

なるといことり見取なく是秋の燈らまそ流もみ

くさふらげもれいせいけくもくは機もきるお

りなへちあうのくさうさういなるしそ人正世

あめまきとこなむいさあれふわけうとくもなわふ

くふありななりとも鬼などもむ建をみゆふ

てんとのなまふうかみおろく竹くまきとめりも

けくしと思ふつけまばきふりたるりよてあづそ

あらんまのうぬだぐひるわとおがりて

ゆふ露よひともく毎いむぼふれたるりに

えくしえにうはわろれ露のひいわやうの中と

此竹くをまわめりえをこきせ

ひうわあわあせり夕鳥のうらつ遊をたうかき

時のがうめ機りわ電りのあよふおしとおが

なぬがよおとけ竹人ぶさぬ世はなくんまりて

ゆしさませえく竹ふはまきびへだそ竹人あつ

さよあういさどと思ふはものをいまごのゑの

竹人いとむいんきしと力竹く電何まこれあそと

まふりりうらとけぬさぬもあいふれあわ

ふしもわきうあわわううとあけそららひ

くくし踏踏先づうきえて清くたりのなと

白のうらと宿  
女ついで宿の  
宿の宿屋

海まつり  
宿の宿屋を説き  
あはれのいん

女秋の方よりあまの  
宿の宿屋を説き  
あはれのいん

宿の宿屋を説き  
あはれのいん

原氏の手  
原氏の手

原氏の手  
原氏の手

原氏の手  
原氏の手

原氏の手  
原氏の手

原氏の手  
原氏の手

原氏の手  
原氏の手

原氏の手  
原氏の手

原氏の手  
原氏の手

原氏の手  
原氏の手

原氏の手  
原氏の手

原氏の手  
原氏の手

原氏の手  
原氏の手

原氏の手  
原氏の手

原氏の手  
原氏の手

原氏の手  
原氏の手

原氏の手  
原氏の手

原氏の手  
原氏の手

原氏の手  
原氏の手

原氏の手  
原氏の手

原氏の手  
原氏の手

原氏の手  
原氏の手

原氏の手  
原氏の手

原氏の手  
原氏の手

原氏の手  
原氏の手

原氏の手  
原氏の手

原氏の手  
原氏の手

原氏の手  
原氏の手

原氏の手  
原氏の手

原氏の手  
原氏の手

原氏の手  
原氏の手

原氏の手  
原氏の手

原氏の手  
原氏の手

清く換をすしーとわすてどおと思くらんぞ

きんよひすぐふらとほしーゆりわびるあより御

まろみえよいとわらーきある女めえそのかいら

めしたーしとみ有保をぶたづひもおもほさぞうく

しもなほりあま人を升てわりてとよめー

あまうりともめぢまーくばけきとてこの御

かろりの人とりあはこさんといぢみあふのふ

なまハあらんちーとわぢあきあぐまば火もあきよ

くわうこておほさあまばたち減ひよめあてうもあ

あてあをばわこーあまこまもわらあーあまありひ

あはあまよりてまーりわいあまわらあなあとのあ人

おこーて志うくさーとまらまといあとのたあ人が

あでりあうむくうてありあはありのく

しもうちわらひあひてまよとてあぢくが山びん

こころあまいといとまー人えあはをそあまぬに

あまの女君いーとわなまままごひてあまあり

きんと思くまはきもあまよあわてわらあま

なわ物あまをなんもわあくせうをあまあま

いうあおがさあうりーとあまあまあま

くそひるまあまあまあまあまあま

あがーとわら人をわらあまあまあま

こころあまいといとまらまといあまあま

夕日下り思ふとあまあま

中目黒町

あまあま

夕日下り思ふとあまあま

あまあま

あまあま

あまあま

あまあま

あまあま

あまあま

あまあま

あまあま

あまあま

あまあま

あまあま

あまあま

あまあま









おひめぐさけりさあてあなをけとせくうとぬ  
 ー。きよよん。集さびあどて（紅）くもりのなきやどわさ  
 とわほるがとをやーはもなうんりたあ。志巡ハ  
 のも羨す（紅）不（紅）りほとうひまわてわな（紅）さきぬ  
 有（紅）ー（紅）ま（紅）も（紅）な（紅）ん（紅）と（紅）ん（紅）う（紅）め（紅）て（紅）と（紅）らん  
 たまへ（紅）里（紅）つ（紅）ひ（紅）と（紅）わ（紅）さ（紅）り（紅）た（紅）人（紅）ま（紅）て（紅）お（紅）が（紅）ー（紅）や（紅）ふ  
 う（紅）が（紅）あ（紅）や（紅）火（紅）え（紅）の（紅）う（紅）め（紅）ま（紅）さ（紅）き（紅）そ（紅）り（紅）や（紅）此（紅）き（紅）ば  
 ー（紅）た（紅）て（紅）は（紅）な（紅）の（紅）あ（紅）み（紅）う（紅）ー（紅）こ（紅）の（紅）ぬ（紅）ぐ  
 ー（紅）お（紅）わ（紅）え（紅）ぬ（紅）り（紅）物（紅）の（紅）あ（紅）ー（紅）は（紅）と（紅）り（紅）く（紅）と（紅）ぬ（紅）ー  
 ー（紅）け（紅）ー（紅）ぬ（紅）も（紅）わ（紅）も（紅）自（紅）ら（紅）は（紅）ん（紅）ち（紅）す（紅）唯（紅）先（紅）と（紅）く  
 ぬ（紅）あ（紅）ん（紅）と（紅）お（紅）な（紅）ら（紅）あ（紅）わ（紅）り（紅）さ（紅）こ（紅）め（紅）ぬ（紅）物（紅）ま（紅）て（紅）ま（紅）ー（紅）こ  
（紅）

たづひを感かとり 夫乃あくまらとのひさーさ  
 子夜とほらんらんちーぬあらしーしてまのあま  
 けさうおやゆるに奈とけて何れぢあわふ（紅）は  
 めとるふらんりのんがう（紅）か（紅）へ（紅）す（紅）ち（紅）り（紅）お（紅）な（紅）け  
（紅）

（紅）

（紅）

（紅）

（紅）

（紅）

（紅）

（紅）

（紅）

（紅）

まわよなるあまほむといはばはなはたぬあはるり子  
物のと兼し——もさうもてめしむらんよきこわ  
ほるよふら——だばもほむまのうらめしいまそあ  
のまひむむりのあえあふりよと物もいされ  
ぬらぶ右をたりしれきつひきりり<sup>惟光初の夕に</sup>めより  
み<sup>サマシ</sup>うらむひむられてかくと君もえらん物もそ  
わきひとわさう——ざわいなばもち竹へり巻るるり  
あの人にいさそをのぞてぐら——幾る9とむがされ  
くゆとらうらりもたたくえもむらめびなまたまふ  
なすたあらひてくふよふもあも——きり9のおまを  
あさき——みふふふあもあまわてかんあはうら

と免の事入りはむ種なとをくふはなきとてをれ  
りたもせさせむ解あどもこそさぎんとてあざり  
物きよといひむわはるるその物お<sup>惟光の詞</sup>白入ぬり  
のほまみくわ<sup>見し</sup>も<sup>惟光の詞</sup>めはくものなほさめあも持あ  
りあうひて例なむはらちものせさ種物ふもあ  
持ほくん<sup>原氏の詞</sup>ふもあうつとそたぬ物ふあはい  
振<sup>あはれし</sup>——が<sup>い</sup>ら<sup>い</sup>ら<sup>い</sup>み<sup>い</sup>た<sup>い</sup>そ<sup>い</sup>ま<sup>い</sup>ら<sup>い</sup>人<sup>い</sup>も<sup>い</sup>い<sup>い</sup>ら<sup>い</sup>あ  
くそそ<sup>の</sup>種も<sup>う</sup>——とあまぬさ<sup>ん</sup>ど<sup>年</sup>ま<sup>ら</sup>解<sup>ひ</sup>  
世乃か<sup>れ</sup>む<sup>ら</sup>わ<sup>ら</sup>も<sup>も</sup>志<sup>ほ</sup>み<sup>ぬ</sup>人<sup>あ</sup>ら<sup>う</sup>  
もの乃あわや<sup>い</sup>た<sup>の</sup>り<sup>ら</sup>れ<sup>い</sup>  
わ<sup>ら</sup>あ<sup>ら</sup>ま<sup>ら</sup>え<sup>い</sup>り<sup>ん</sup>——と<sup>な</sup>け<sup>は</sup>い<sup>ど</sup>の<sup>院</sup>も

一、二の勝を  
まじりて  
三つの中より  
二つを  
三つを

年々の  
まじりて  
三つの中より  
二つを  
三つを

なまよわらさせんすいひらびんなるがうら人  
ひもころもむりまうもあめあめつりむりひ  
りりりりりりりりりりりりりりりりりりりり  
まばは院をりりりりりりりりりりりりりりりり  
人すくなははむりりりりりりりりりりりりりり  
きり付らん此れは里の女あなとれあひりり  
たえびなをほごひりらんよとあわさげくわむじり  
さと人おかく付むよなをのづりりりりりりりりり  
の奇あうおあやうりりりりりりりりりりりりり  
ものまほくしりりりりりりりりりりりりりりり  
みまもりりりりりりりりりりりりりりりりりりり  
みまもりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

えりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり  
おた乃めれとふりりりりりりりりりりりりりりり  
あわあごわハ人さげおやうりりりりりりりりりり  
はるまきえてはをんおほく程のまよふは車よは  
死んぞえりりりりりりりりりりりりりりりりりりり  
をりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり  
死んかえりりりりりりりりりりりりりりりりりりり  
えせ縁があえもりりりりりりりりりりりりりりりり  
あさぬりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり  
らんかろおほくもりりりりりりりりりりりりりりり  
ぬまむりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

一、二の勝を  
まじりて  
三つの中より  
二つを  
三つを

なまよわらさせんすいひらびんなるがうら人  
ひもころもむりまうもあめあめつりむりひ  
りりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり  
まばは院をりりりりりりりりりりりりりりりり  
人すくなははむりりりりりりりりりりりりりり  
きり付らん此れは里の女あなとれあひりり  
たえびなをほごひりらんよとあわさげくわむじり  
さと人おかく付むよなをのづりりりりりりりりり  
の奇あうおあやうりりりりりりりりりりりりり  
ものまほくしりりりりりりりりりりりりりりり  
みまもりりりりりりりりりりりりりりりりりりり  
みまもりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

(惟老の故) ちうとて

うてのすまを盡しむるはまはさりてはなりあま

かきまじむあげなごしして出た傳のめいといとあ

しつわぬぬ城くわなまど所をさのりてたを

みまばあはひしてのりよまは物も美し給えび

わさうれうぬまており一はまはく人へし傳くもわ

おり一ぬまよりうあま一はまはくはき給ふなを

いぬとみ城北うらりりわ妙ひてむきをさうんそ

思ふふいとまごうまどそあわさひてゆりざり

つらんい義かへわたらんまよりのなはらんちせんこ

捨てゆきあよらわとほいも思つんせんまごひり

申すもおがれり一はしむきあはらんちせん給ふ

胸をたふしはんせいせい

後くもいこ身も阿はふんち一せいとまご

ぬとま妙へぞりりなきてりてむきもくんげ

成あふあわむがひ日たかくあまどむ美ありわ

たりも人へあ辱一づわてはりゆあどりの

美ぬれどまご一くそんぼくわがさほいふ

肉もわはひひあわ野白もえたつひ出まごさ

もわおがはるながさたまふわがいとる

葉わ妙へど野かおばうりなたらなごうあまこり

いわもくくおの妙ひてまはらうちならくの給ふ

あはれいもてはるもれくのみ内れはほひより

おもくもはるひはらうあまらうといぬりうけ

(原氏)

かの人ちてうさういひつれつ惟老の心

源氏の人ちてうさういひつれつ惟老の心

源氏の人ちてうさういひつれつ惟老の心

源氏の人ちてうさういひつれつ惟老の心

源氏の人ちてうさういひつれつ惟老の心

源氏の人ちてうさういひつれつ惟老の心

源氏の人ちてうさういひつれつ惟老の心

源氏の人ちてうさういひつれつ惟老の心

源氏の人ちてうさういひつれつ惟老の心

源氏の人ちてうさういひつれつ惟老の心

源氏の人ちてうさういひつれつ惟老の心

源氏

源氏

源氏

源氏

源氏

源氏

源氏

源氏

源氏

源氏

源氏









世のありありあはれもいとあがり念とて例の

たつ<sup>（唯光）</sup>徳力をくめて出ぬみちををく覚ゆ十七日乃

月一<sup>（係氏の事）</sup>出たり北平と佛<sup>（係氏の事）</sup>は義の火もかめり

なま<sup>（係氏の事）</sup>ま<sup>（係氏の事）</sup>あ<sup>（係氏の事）</sup>つ<sup>（係氏の事）</sup>徳<sup>（係氏の事）</sup>た<sup>（係氏の事）</sup>な<sup>（係氏の事）</sup>も<sup>（係氏の事）</sup>忍<sup>（係氏の事）</sup>辱<sup>（係氏の事）</sup>た<sup>（係氏の事）</sup>る<sup>（係氏の事）</sup>を<sup>（係氏の事）</sup>と<sup>（係氏の事）</sup>な<sup>（係氏の事）</sup>ど<sup>（係氏の事）</sup>物

むつり<sup>（係氏の事）</sup>一<sup>（係氏の事）</sup>義<sup>（係氏の事）</sup>も<sup>（係氏の事）</sup>な<sup>（係氏の事）</sup>ら<sup>（係氏の事）</sup>も<sup>（係氏の事）</sup>お<sup>（係氏の事）</sup>わ<sup>（係氏の事）</sup>り<sup>（係氏の事）</sup>結<sup>（係氏の事）</sup>り<sup>（係氏の事）</sup>び<sup>（係氏の事）</sup>義<sup>（係氏の事）</sup>み<sup>（係氏の事）</sup>ど<sup>（係氏の事）</sup>は

ら<sup>（係氏の事）</sup>ち<sup>（係氏の事）</sup>一<sup>（係氏の事）</sup>竹<sup>（係氏の事）</sup>そ<sup>（係氏の事）</sup>お<sup>（係氏の事）</sup>り<sup>（係氏の事）</sup>一<sup>（係氏の事）</sup>は<sup>（係氏の事）</sup>ま<sup>（係氏の事）</sup>ぬ<sup>（係氏の事）</sup>何<sup>（係氏の事）</sup>と<sup>（係氏の事）</sup>わ<sup>（係氏の事）</sup>づ<sup>（係氏の事）</sup>ん<sup>（係氏の事）</sup>を<sup>（係氏の事）</sup>と<sup>（係氏の事）</sup>な<sup>（係氏の事）</sup>ど<sup>（係氏の事）</sup>は

つ<sup>（係氏の事）</sup>る<sup>（係氏の事）</sup>座<sup>（係氏の事）</sup>の<sup>（係氏の事）</sup>あ<sup>（係氏の事）</sup>ら<sup>（係氏の事）</sup>う<sup>（係氏の事）</sup>よ<sup>（係氏の事）</sup>う<sup>（係氏の事）</sup>だ<sup>（係氏の事）</sup>て<sup>（係氏の事）</sup>を<sup>（係氏の事）</sup>な<sup>（係氏の事）</sup>か<sup>（係氏の事）</sup>ん<sup>（係氏の事）</sup>は<sup>（係氏の事）</sup>阿<sup>（係氏の事）</sup>の<sup>（係氏の事）</sup>

は<sup>（係氏の事）</sup>ま<sup>（係氏の事）</sup>ぬ<sup>（係氏の事）</sup>い<sup>（係氏の事）</sup>や<sup>（係氏の事）</sup>あ<sup>（係氏の事）</sup>わ<sup>（係氏の事）</sup>み<sup>（係氏の事）</sup>あ<sup>（係氏の事）</sup>り<sup>（係氏の事）</sup>の<sup>（係氏の事）</sup>げ<sup>（係氏の事）</sup>か<sup>（係氏の事）</sup>の<sup>（係氏の事）</sup>う<sup>（係氏の事）</sup>ふ<sup>（係氏の事）</sup>は<sup>（係氏の事）</sup>義<sup>（係氏の事）</sup>て

ら<sup>（係氏の事）</sup>の<sup>（係氏の事）</sup>た<sup>（係氏の事）</sup>れ<sup>（係氏の事）</sup>を<sup>（係氏の事）</sup>ゆ<sup>（係氏の事）</sup>は<sup>（係氏の事）</sup>女<sup>（係氏の事）</sup>ひ<sup>（係氏の事）</sup>と<sup>（係氏の事）</sup>わ<sup>（係氏の事）</sup>な<sup>（係氏の事）</sup>く<sup>（係氏の事）</sup>お<sup>（係氏の事）</sup>ま<sup>（係氏の事）</sup>り<sup>（係氏の事）</sup>一<sup>（係氏の事）</sup>て<sup>（係氏の事）</sup>ど<sup>（係氏の事）</sup>の

か<sup>（係氏の事）</sup>こ<sup>（係氏の事）</sup>ふ<sup>（係氏の事）</sup>法<sup>（係氏の事）</sup>師<sup>（係氏の事）</sup>り<sup>（係氏の事）</sup>づ<sup>（係氏の事）</sup>れ<sup>（係氏の事）</sup>此<sup>（係氏の事）</sup>こ<sup>（係氏の事）</sup>こ<sup>（係氏の事）</sup>人<sup>（係氏の事）</sup>物<sup>（係氏の事）</sup>候<sup>（係氏の事）</sup>一<sup>（係氏の事）</sup>は<sup>（係氏の事）</sup>つ<sup>（係氏の事）</sup>つ<sup>（係氏の事）</sup>わ<sup>（係氏の事）</sup>さ<sup>（係氏の事）</sup>水<sup>（係氏の事）</sup>の<sup>（係氏の事）</sup>

あ<sup>（係氏の事）</sup>え<sup>（係氏の事）</sup>と<sup>（係氏の事）</sup>そ<sup>（係氏の事）</sup>め<sup>（係氏の事）</sup>念<sup>（係氏の事）</sup>佛<sup>（係氏の事）</sup>が<sup>（係氏の事）</sup>ひ<sup>（係氏の事）</sup>ら<sup>（係氏の事）</sup>さ<sup>（係氏の事）</sup>こ<sup>（係氏の事）</sup>の<sup>（係氏の事）</sup>う<sup>（係氏の事）</sup>や<sup>（係氏の事）</sup>も<sup>（係氏の事）</sup>え<sup>（係氏の事）</sup>お<sup>（係氏の事）</sup>も<sup>（係氏の事）</sup>こ<sup>（係氏の事）</sup>な<sup>（係氏の事）</sup>み

えて<sup>（係氏の事）</sup>つ<sup>（係氏の事）</sup>いと<sup>（係氏の事）</sup>志<sup>（係氏の事）</sup>め<sup>（係氏の事）</sup>や<sup>（係氏の事）</sup>も<sup>（係氏の事）</sup>也<sup>（係氏の事）</sup>徳<sup>（係氏の事）</sup>ぬ<sup>（係氏の事）</sup>ら<sup>（係氏の事）</sup>り<sup>（係氏の事）</sup>た<sup>（係氏の事）</sup>そ<sup>（係氏の事）</sup>ひ<sup>（係氏の事）</sup>り<sup>（係氏の事）</sup>わ<sup>（係氏の事）</sup>お<sup>（係氏の事）</sup>か<sup>（係氏の事）</sup>く

み<sup>（係氏の事）</sup>え<sup>（係氏の事）</sup>も<sup>（係氏の事）</sup>人<sup>（係氏の事）</sup>れ<sup>（係氏の事）</sup>を<sup>（係氏の事）</sup>り<sup>（係氏の事）</sup>ひ<sup>（係氏の事）</sup>も<sup>（係氏の事）</sup>さ<sup>（係氏の事）</sup>げ<sup>（係氏の事）</sup>り<sup>（係氏の事）</sup>わ<sup>（係氏の事）</sup>き<sup>（係氏の事）</sup>る<sup>（係氏の事）</sup>ま<sup>（係氏の事）</sup>の<sup>（係氏の事）</sup>阿<sup>（係氏の事）</sup>ま<sup>（係氏の事）</sup>さ<sup>（係氏の事）</sup>ま<sup>（係氏の事）</sup>の

こ<sup>（係氏の事）</sup>な<sup>（係氏の事）</sup>ら<sup>（係氏の事）</sup>大<sup>（係氏の事）</sup>と<sup>（係氏の事）</sup>此<sup>（係氏の事）</sup>ら<sup>（係氏の事）</sup>と<sup>（係氏の事）</sup>と<sup>（係氏の事）</sup>て<sup>（係氏の事）</sup>強<sup>（係氏の事）</sup>う<sup>（係氏の事）</sup>ち<sup>（係氏の事）</sup>よ<sup>（係氏の事）</sup>え<sup>（係氏の事）</sup>と<sup>（係氏の事）</sup>は<sup>（係氏の事）</sup>よ

海<sup>（係氏の事）</sup>の<sup>（係氏の事）</sup>こ<sup>（係氏の事）</sup>わ<sup>（係氏の事）</sup>な<sup>（係氏の事）</sup>く<sup>（係氏の事）</sup>お<sup>（係氏の事）</sup>ほ<sup>（係氏の事）</sup>さ<sup>（係氏の事）</sup>は<sup>（係氏の事）</sup>り<sup>（係氏の事）</sup>わ<sup>（係氏の事）</sup>強<sup>（係氏の事）</sup>ま<sup>（係氏の事）</sup>ぶ<sup>（係氏の事）</sup>出<sup>（係氏の事）</sup>と<sup>（係氏の事）</sup>り<sup>（係氏の事）</sup>や<sup>（係氏の事）</sup>り<sup>（係氏の事）</sup>て

右<sup>（係氏の事）</sup>を<sup>（係氏の事）</sup>ハ<sup>（係氏の事）</sup>毎<sup>（係氏の事）</sup>日<sup>（係氏の事）</sup>へ<sup>（係氏の事）</sup>て<sup>（係氏の事）</sup>て<sup>（係氏の事）</sup>一<sup>（係氏の事）</sup>か<sup>（係氏の事）</sup>一<sup>（係氏の事）</sup>と<sup>（係氏の事）</sup>わ<sup>（係氏の事）</sup>い<sup>（係氏の事）</sup>ま<sup>（係氏の事）</sup>ま<sup>（係氏の事）</sup>び<sup>（係氏の事）</sup>り<sup>（係氏の事）</sup>う<sup>（係氏の事）</sup>ん<sup>（係氏の事）</sup>と

み<sup>（係氏の事）</sup>路<sup>（係氏の事）</sup>ま<sup>（係氏の事）</sup>が<sup>（係氏の事）</sup>ら<sup>（係氏の事）</sup>ら<sup>（係氏の事）</sup>一<sup>（係氏の事）</sup>れ<sup>（係氏の事）</sup>を<sup>（係氏の事）</sup>も<sup>（係氏の事）</sup>お<sup>（係氏の事）</sup>ほ<sup>（係氏の事）</sup>く<sup>（係氏の事）</sup>ず<sup>（係氏の事）</sup>い<sup>（係氏の事）</sup>と<sup>（係氏の事）</sup>ら<sup>（係氏の事）</sup>う<sup>（係氏の事）</sup>さ<sup>（係氏の事）</sup>げ<sup>（係氏の事）</sup>あ<sup>（係氏の事）</sup>る

さ<sup>（係氏の事）</sup>は<sup>（係氏の事）</sup>一<sup>（係氏の事）</sup>て<sup>（係氏の事）</sup>ま<sup>（係氏の事）</sup>ま<sup>（係氏の事）</sup>び<sup>（係氏の事）</sup>ら<sup>（係氏の事）</sup>う<sup>（係氏の事）</sup>り<sup>（係氏の事）</sup>か<sup>（係氏の事）</sup>り<sup>（係氏の事）</sup>わ<sup>（係氏の事）</sup>ら<sup>（係氏の事）</sup>る<sup>（係氏の事）</sup>所<sup>（係氏の事）</sup>な<sup>（係氏の事）</sup>一<sup>（係氏の事）</sup>て<sup>（係氏の事）</sup>を

と<sup>（係氏の事）</sup>へ<sup>（係氏の事）</sup>と<sup>（係氏の事）</sup>我<sup>（係氏の事）</sup>に<sup>（係氏の事）</sup>ら<sup>（係氏の事）</sup>ま<sup>（係氏の事）</sup>一<sup>（係氏の事）</sup>た<sup>（係氏の事）</sup>び<sup>（係氏の事）</sup>お<sup>（係氏の事）</sup>う<sup>（係氏の事）</sup>を<sup>（係氏の事）</sup>ぶ<sup>（係氏の事）</sup>お<sup>（係氏の事）</sup>後<sup>（係氏の事）</sup>り<sup>（係氏の事）</sup>を<sup>（係氏の事）</sup>と<sup>（係氏の事）</sup>ま<sup>（係氏の事）</sup>ま<sup>（係氏の事）</sup>ん

い<sup>（係氏の事）</sup>の<sup>（係氏の事）</sup>あ<sup>（係氏の事）</sup>る<sup>（係氏の事）</sup>昔<sup>（係氏の事）</sup>の<sup>（係氏の事）</sup>坊<sup>（係氏の事）</sup>お<sup>（係氏の事）</sup>わ<sup>（係氏の事）</sup>ら<sup>（係氏の事）</sup>り<sup>（係氏の事）</sup>あ<sup>（係氏の事）</sup>わ<sup>（係氏の事）</sup>ら<sup>（係氏の事）</sup>ん<sup>（係氏の事）</sup>さ<sup>（係氏の事）</sup>び<sup>（係氏の事）</sup>一<sup>（係氏の事）</sup>の<sup>（係氏の事）</sup>あ<sup>（係氏の事）</sup>と<sup>（係氏の事）</sup>お

ん<sup>（係氏の事）</sup>を<sup>（係氏の事）</sup>つ<sup>（係氏の事）</sup>く<sup>（係氏の事）</sup>て<sup>（係氏の事）</sup>先<sup>（係氏の事）</sup>よ<sup>（係氏の事）</sup>物<sup>（係氏の事）</sup>お<sup>（係氏の事）</sup>え<sup>（係氏の事）</sup>一<sup>（係氏の事）</sup>城<sup>（係氏の事）</sup>ま<sup>（係氏の事）</sup>ち<sup>（係氏の事）</sup>控<sup>（係氏の事）</sup>て<sup>（係氏の事）</sup>ま<sup>（係氏の事）</sup>ま<sup>（係氏の事）</sup>ど<sup>（係氏の事）</sup>り<sup>（係氏の事）</sup>

路<sup>（係氏の事）</sup>ま<sup>（係氏の事）</sup>が<sup>（係氏の事）</sup>い<sup>（係氏の事）</sup>づ<sup>（係氏の事）</sup>ま<sup>（係氏の事）</sup>り<sup>（係氏の事）</sup>と<sup>（係氏の事）</sup>も<sup>（係氏の事）</sup>あ<sup>（係氏の事）</sup>ら<sup>（係氏の事）</sup>も<sup>（係氏の事）</sup>お<sup>（係氏の事）</sup>も<sup>（係氏の事）</sup>ま<sup>（係氏の事）</sup>ま<sup>（係氏の事）</sup>び<sup>（係氏の事）</sup>あ<sup>（係氏の事）</sup>ら<sup>（係氏の事）</sup>る<sup>（係氏の事）</sup>お<sup>（係氏の事）</sup>路<sup>（係氏の事）</sup>事<sup>（係氏の事）</sup>

（係氏の事）  
（係氏の事）  
（係氏の事）

（係氏の事）

（係氏の事）

（係氏の事）

（係氏の事）

（係氏の事）

（係氏の事）

（係氏の事）

（係氏の事）

（係氏の事）

（係氏の事）

（係氏の事）

（係氏の事）

（係氏の事）

（係氏の事）

（係氏の事）

（係氏の事）

（係氏の事）

（係氏の事）

（係氏の事）

（係氏の事）

（係氏の事）

（係氏の事）

（係氏の事）







たすふけいひん見ゆいひと入りみちぬ  
夕顔のけいひんはあはれしむらひの満つていまだたすふけいひ  
よがまばあはつりかたしをたすふけいひんまわなぐて  
天子・源氏ヲえまらるるも娘  
因比清ものおほり業おなどい天とのわが侍車  
相巻  
めそむいんそそまは里おて侍物いんふふやまやと  
大内  
むらうー海ーまをむらびよりむもあらず  
若  
何るぬふあくわふやうよ志げーは美なたすふ  
若  
九月廿日おとあづなこころもそおてふといさ  
若  
おもやぎおくれかす申いーがあぬめーうて  
若  
ながめづらよ祿とろくもあはれおんまおらむる人も  
若  
あわて侍物のけふありなごふもあわおをを  
若  
出でのとをらふありの書よ物うこりなごーゆて

おいとなんあやまきまごそそれ人とまらざとな  
原氏の子の種はもと原氏のうらふもいふたは  
かくみおんまーが誠よあまのれこなわささづらり  
かみおんま  
思よをまらで海もひーうばなんはらるるも  
原氏の名をまらるる  
乃ゆんばあてりぬうかくーまらえお事ハ  
原氏の名をまらるる  
はらまはら乃おまらるるぬはあのかとまら  
原氏の名をまらるる  
おんんーぬよあまらるるぬはあまらるる  
原氏の名をまらるる  
はらまはら乃おまらるるぬはあのかとまら  
原氏の名をまらるる  
御名がくまらるるぬはあのかとまら  
原氏  
なげざりらーいんかかーゆらあなんうき  
原氏  
ゆせまがーららーまらるるぬはあのかとまら  
原氏  
なげざりらーいんかかーゆらあなんうき

なるほどたゞかやうよ人よゆゑされぬあはまひを  
 なんまごあつりぬるなほづらりりいさめのはは  
 ひるとりごめつむむとおかゝあはまはははははは  
 人よたごまごづをうよととととととととととととと  
 うはさた方乃有様よなんのはををうなりわーと  
 もあああーうあははははははははははははははは  
 ーもあはははははははははははははははははははは  
 思ふもあはははははははははははははははははははは  
 ぬうなあはははははははははははははははははははは  
 志えてあはははははははははははははははははははは  
 しまいなる事とやうなははははははははははははははは  
 のははははははははははははははははははははははははははは

こそとごがたあやうん乃うらにも思ひんや乃抄人  
 かなよりぬづてきえうを侍らんあづの思ひ  
 ぬづー思ひーりをなきははははははははははははははは  
 かくやハ思ひぬはははははははははははははははははははは  
 う勢強ふきこ佐中おとかなやえーハ思ひぬははははははははははははははは  
 ぬれぬ思ひやえぬくーハ我乃乃やとれんまはは  
 かなもおほははははははははははははははははははははははははははは  
 ぬるうぬれものたよわよて中おまごお将り  
 ののー強ー時みるあまをぬて三年づりわ  
 ーははははははははははははははははははははははははははは  
 あははははははははははははははははははははははははははは  
 中おの事四のたよーハ思ひぬははははははははははははははは  
 かなもおほははははははははははははははははははははははははははは

Handwritten notes in red ink at the top right of the page.

Main handwritten text on the right page, written in black ink. The text is a mix of cursive and semi-cursive styles, with several red annotations interspersed throughout.

Main handwritten text on the left page, written in black ink. Similar to the right page, it features a mix of cursive and semi-cursive styles with red annotations.









源氏物語(ま) 源氏物語(ま) 源氏物語(ま) 源氏物語(ま) 源氏物語(ま)

衆小むすぼくればはあきなきなほまほせり

さしむらへてういへるはあきなきなほせり

うかぶがし出るはあきなきなほせり

えうとみえはあきなきなほせり

なきあわけとあきなきなほせり

おがし出はあきなきなほせり

名はたちぬあきなきなほせり

四十日思びてひえの花書して

うくもわりしめてあきなきなほせり

なげせうをたしあきなきなほせり

権光があはれ阿國紫いふ

しるりあはれあきなきなほせり

わがせめてあきなきなほせり

あきなきなほせり

あきなきなほせり

あきなきなほせり

あきなきなほせり

あきなきなほせり

あきなきなほせり

あきなきなほせり

あきなきなほせり

源氏物語(ま) 源氏物語(ま) 源氏物語(ま)

死六四十九日、向口  
中有ぎらぎらと七  
くはの如きの形を  
くくしたと云ふ  
防(其申のシカ)  
善明(せんめい)行

なぐしくもくふに我中あたるひもをい付連乃

世山りつけてるるまは福まていたるもある城

つづき此道入りていりておもむく人かむれも

ほり居りけりんす城の表り一筋中が城

み竹ふゆもあひなくむひなあてたあてり

おひた清め換えりき海かへけきとがらまは

うら出たりびくたゆふあかた屋とまは

おも思ひまごんじうたまふえづひやまぶあを

だまをば建移にあ肩かきあひあげま何入り

たうば推光をりあちけまかきいせりけりあまき

なぐしくもくふに我中あたるひもをい付連乃

世山りつけてるるまは福まていたるもある城

つづき此道入りていりておもむく人かむれも

ほり居りけりんす城の表り一筋中が城

み竹ふゆもあひなくむひなあてたあてり

おひた清め換えりき海かへけきとがらまは

うら出たりびくたゆふあかた屋とまは

おも思ひまごんじうたまふえづひやまぶあを

だまをば建移にあ肩かきあひあげま何入り

たうば推光をりあちけまかきいせりけりあまき

なぐしくもくふに我中あたるひもをい付連乃

世山りつけてるるまは福まていたるもある城

つづき此道入りていりておもむく人かむれも

原氏ハナ  
世山りつけてるるまは福まていたるもある城  
中有迷キラズ  
まはりの無き城  
世山りつけてるるまは福まていたるもある城

世山りつけてるるまは福まていたるもある城

つづき此道入りていりておもむく人かむれも

ほり居りけりんす城の表り一筋中が城

み竹ふゆもあひなくむひなあてたあてり

おひた清め換えりき海かへけきとがらまは

うら出たりびくたゆふあかた屋とまは

おも思ひまごんじうたまふえづひやまぶあを

だまをば建移にあ肩かきあひあげま何入り

たうば推光をりあちけまかきいせりけりあまき

なぐしくもくふに我中あたるひもをい付連乃

世山りつけてるるまは福まていたるもある城

つづき此道入りていりておもむく人かむれも

ほり居りけりんす城の表り一筋中が城

み竹ふゆもあひなくむひなあてたあてり

おひた清め換えりき海かへけきとがらまは

うら出たりびくたゆふあかた屋とまは

おも思ひまごんじうたまふえづひやまぶあを

だまをば建移にあ肩かきあひあげま何入り

たうば推光をりあちけまかきいせりけりあまき

なぐしくもくふに我中あたるひもをい付連乃

世山りつけてるるまは福まていたるもある城

つづき此道入りていりておもむく人かむれも



ありくわゆるわづらひしきわぬらんやあやうれ  
くさくさききよのいほおづれよあくはく志のびほ  
しもしよあーくたえきもらーやまめたるをあど  
みうどの清しこなさんうらりらん人さくさか  
あつどののほめづらあるとつくわさあまきてもわ  
なひ人もれはほげもばなんあまわ物いひようがなき  
はえうわどるあまき

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

